

【学成果報告】

3月1日夜、成田空港発の飛行機に乗り、シアトルで乗り継ぎをして、現地の3月1日にハンフォード地域の空港に到着しました。3月2日から9日までの8日間をハンフォード地域で活動し、その後シアトルで2日間の視察を経て、3月14日に成田空港に帰ってきました。移動時間を除くと、活動した日程は合わせて10日間と、比較的コンパクトではありながらも、非常に濃密な時間を送ることが出来ました。

今回の活動について、大きく3つに分けて報告させていただきます。

1つ目に、ワシントン州立大学での活動、2つ目に、コロンビアベイスン短期大学での活動、3つ目に大学以外の機関における活動に関して報告いたします。

【スライド4】まず1つ目の、ワシントン州立大学、WSUでの活動について報告いたします。WSU内の特徴的なセンターとして、ワイン科学センターとモザイクセンターが挙げられます。

【スライド5～10】大学直属のワイン科学センターは、全米でもカリフォルニアとWSUの2校にしかないそうです。大学の位置するトライシティーズは、乾燥していて、水はけの良い土壌とコロンビア川の豊富な水源に恵まれており、それらをうまく活用した大規模な灌漑（かんがい）農業が非常に盛んな地域です。そのため、ワイン用のブドウ作りも行われ、ワシントン州全体としてカリフォルニアに続き全米で第2位の生産量を誇っています。WSUのワイン科学センターは、ワインの風味や成分を科学的に分析したり、醸造までのプロセスを実践的に学んだりする設備が整っています。センターで学ぶ学生は、卒業までに出来る限りワイナリーとブドウ農家の両方でインターンシップを行うことが推奨されているそうです。大学で作られたワインは、実際にキャンパス内や街中で売られ、その収益はセンターの維持費や研究費に充てられます。トライシティーズは非常に乾燥する地域で、例年、山火事が多く発生しますが、山火事の煙がワイン用のブドウの味に悪影響を及ぼすそうです。センターでは、その煙をうまく活用してワインの風味に活かすことができないか研究しており、地域のワイナリーと密接に関わりながら、研究を地域に還元しているとのことでした。この地域ならではの産業と大学が密接に連携をして、地域をより良く発展させて行こうとしている所が凄いなと思いました。このように、いわきの産業と大学が上手く緊密に連携していくことで、より良い地域になっていくと思い、自分もそれに貢献していきたいと思いました。

【スライド11・12】次に、WSUのモザイクセンターについて説明します。モザイクセンターは、移民や性的マイノリティなど、様々な面で差別を受けやすい立場にある人々のために発足されたセンターで、マイノリティのバックグラウンドを持つ学生・教職員が自ら動いて様々な企画を立案・実行することで、みんなが活躍できる場を作っているのだそうです。現在の日本では、性的マイノリティなど、個々を尊重する意識がまだまだ低い状況がありますが、同様に肌の色や性的マイノリティによる差別の

意識が根強いアメリカにおいて、個々を尊重し、活躍できる場を積極的に作る取り組みは素晴らしいと感じました。

【スライド13~15】WSUでの特徴的な取り組みとして、ハンフォード歴史プロジェクトがあります。2014年から始まったこのプロジェクトは、次の世代に対し、ハンフォードサイトとその周辺地域で当時何が行われていたのか、それにより今サイトがどのような状態であるのか、正しく歴史を伝えていくためにスタートしました。独自に何百人もの住民や当時の労働者などに直接聞き取りを行って情報を集め、セミナーや本の出版などを行っています。実際に、ハンフォードサイトで働いていた方々の子どもですら、親がサイトでどういった仕事をしていたのかをいまだに知らないこともあるそうです。正しく歴史を後世に伝えていくために、地元の大学がそれらの情報を伝える媒介となっていることは非常に意味があるものだと思います。

【スライド16】次に、コロンビアベイソン短期大学、CBCとの活動について報告いたします。今回、私たちのホームステイ先として受け入れてくださったのがCBCの学生ですが、受け入れてくださった3家族のうち、2家族の学生は高校3年生で、CBCの特徴的な取り組みである「ランニングスタート」という制度を活用している生徒たちでした。ランニングスタートとは、日本でいう高大連携のシステムで、地域の高校で一定以上の成績を取めている生徒であれば、CBCの授業を受けることが出来るそうです。大学や短大に入学した際には、取得した単位を反映させることができ、通常より早く卒業することも可能になるそうです。このような制度があると、高校生が早い段階で大学での授業をより具体的に感じる事ができ、また勉学に励む姿勢を身につけることが出来るのではないかと思います。

【スライド17】今回の研修期中、CBCの日本文化クラブのメンバーと多くの交流の時間を過ごしました。

【スライド18~20】日本文化クラブ主催のイベントまで開催していただきました。「あなたはどれだけ福島について知っていますか？」というテーマで、福島県の概要やいわき市の魅力、震災からの復興などについて英語でプレゼンしました。とても良いプレゼンだったと褒めていただき、少しでも多く、福島のことを知ってもらえたと思います。コロナのパンデミック以降、CBCでこういったイベントが開かれるのは初めてだったようで、様々な学部や学外から多くの方々がイベントに足を運んでくださいました。日本文化クラブのメンバーも、日本とアメリカの給食・ランチについての違いをプレゼンしてくれたり、日本にまつわる劇を披露してくれたり、沢山の時間を割いて準備してくださいました。イベントの前日には、日本文化クラブのメンバーと一緒に告知ポスターを制作しました。その際、CBCの学生は打ち合わせもせず黙々と制作に取り掛かっていて、その行動力にまず驚きましたが、私達も自然に和気あいあいと作業に取り組むことが出来ました。

【スライド21~23】その他にも、CBCの日本文化の授業に特別ゲストとして出席させてもらい、一緒に折り紙で鶴を折ったり、サイクリングやフードトラックに行き、現地の学生さんとの交流を楽しんだりしながら文化や歴史を直接学ぶことが出来ました。WSUとCBCに共通して言えることですが、教職員

や学生の皆さんが本当に暖かく我々を迎え入れてくださり、また我々のことを沢山知ろうとして下さる気持ちを感じ、とても嬉しかったです。

【スライド24】3つ目に、大学以外での活動として、ハンフォードリーチ博物館、ラムウェストンというポテト加工企業の工場、ワイナリーやシアトルを視察しました。

【スライド25・26】ハンフォードリーチ博物館は、トライシティーズとその周辺地域の自然と人類の歴史について広く展示しています。マンハッタン計画や冷戦に関する歴史的な背景や先住民族、また氷河期時代の洪水に関する展示や映像などを見ることができます。ハンフォードサイトに関する展示も充実しており、当時の関係者のインタビュー映像なども見ることが出来ました。私たちが過ごしたハンフォード地域をもっと詳しく知ることができてとても有益な時間でした。

【スライド27・28】次に、ラムウェストンは、世界でシェア最大級を誇るポテト加工企業で、マクドナルドなどのチェーン店やレストランへの冷凍ポテトを大規模に製産しています。本社はアイダホ州ですが、2016年にはハンフォード地域の工場に隣接して最新のイノベーションセンターが開設され、独自に様々なアイデアを生み出しているとのこと。水圧を利用したポテトの加工方法の発明や今日（こんにち）に至るまで新たに様々な形にポテトを加工する方法を生み出し続ける企業努力に感銘を受けました。

【スライド29・30】また、トライシティーズにおける重要な観光資源としてワイナリーを視察しました。多くのワイナリーが立ち並ぶレッドマウンテンでは、それぞれのワイナリーが個性を出し、ワインの種類や味のみならず、建物の外観からインテリアのディテールまでよく作り込まれていました。ワイナリーのスタッフの方から、ワシントン州の葡萄畑とその種類についての説明もしていただきました。

【スライド31～35】そして、シアトルでも2日間の視察をし、かつて日系アメリカ人農民の方々が始めたといわれるパイクレイスマーケットやポップカルチャーの博物館、アマゾンの植物園風のガラス張りオフィス（通称アマゾンスフィア）やスターバックスの一号店などを訪れました。どちらかという和田舎で、街全体が明るくやわらかい雰囲気にも包まれるトライシティーズから一転して、大都市であるシアトルは建物も人も多く、近年のインフレの影響もあるのか、全体的に治安が悪いようにも感じました。同じアメリカ、州であっても、全く異なる空気感を肌を感じることも出来ました。

【スライド36～38】今回の研修においては、CBCの学生のご自宅にホームステイし、毎日の生活を共にさせていただきました。行く前は不安もかなり大きかったですが、そんな不安もすぐに吹き飛ばぐらいにとっても暖かく我々を迎え入れてくださり、食事の用意はもちろん、スノーボードやゴーカートなどの楽しいアクティビティにも沢山連れて行っていただきました。単なる旅行などでは得ることの出来ない、かけがえのない時間を過ごさせてもらいました。

以上で、研修に関する報告とさせていただきます。ご清聴ありがとうございます。